

郎友綱、神尾宮内少輔守勝、近藤五左衛門用行、安藤治右衛門正珍、巡年に宇治にまかり、茶詰の事
とり行ふべしと命せられしより起りしなり。

〔享保令典永鑑^雜〕享保八卯年四月

御茶壺宇治往來之節、道中之儀、御徒頭罷越候儀相止候事ニ候間、自今ハ左之通可被心得候、

一 町中并替間掃除等申付奉行給人差出候ニ不及候事、

一 町中御茶壺先拂足輕兩人程相立可然事、

一 大御番御數寄屋頭先拂足輕相立候ニ不及候事、

一 御茶壺町並屋敷玄關前臺居差置候儀ハ可爲只今迄之通候事、

一 火之番物頭足輕召つれ相廻り候ニ不及候事、

一 雨天之節、次之宿迄御茶壺桐油等遣候ニ不及候事、

一 大御番御數寄屋頭旅宿へ町支配之者用事等可承旨ニ而罷越候儀ハ格別、年寄役之者など罷

越候ニハ不及候事、

一 大御番御數寄屋頭并坊主へ町並屋敷ニ而料理出し候義、且又總供之者ニ料理給させ候義相

止候事、

一 次之泊宿迄、以使者音物等ニ不及候、一宿計ニ而大御番御數寄屋頭へ兩種坊主へ一種充被贈

候儀ハ勝手次第之事、

一 下り之節も泊休ニ候ハ右同斷之事、

一 爲迎送問屋庄屋ども町はづれ迄人多に罷出候ニ不及候、四五人程も罷出可然事、

以上

〔京都御役所向大概覺書^七〕同所^治○字御物并御通御茶師之事^附御茶料御茶摘初御拭仕立詰上候